

VOLUME

114

JUNE

2010

HABATAKI

はばたき

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

Yada 52-1, Suruga-ku, Shizuoka 422-8526 Japan

inside NEWS



開学記念行事・運動会の優勝チームのみなさん

●CONTENTS●

平成22年度入学式	1	研究助成採択	8
平成21年度学位記授与式	2	受賞	9
男女共同参画社会づくり宣言登録証の受領	3	HPS国際シンポジウムを終えて	10
駐日ドイツ大使が来学	3	国際交流	
ベトナム・フエ大学科学大学部との学術交流セミナー	3	留学生スキー教室に参加して	11
GCOE		フィリピン留学を通して	12
マヒドン大学理学部及び環境資源科学部との学術交流協定締結	4	活躍する卒業生・修了生	13
産学連携		平成22年3月卒業・修了者の就職状況	14
「静岡発 世界を結ぶ新世代茶飲料と素材の開発」研究成果発表会	5	はばたき寄金からのお知らせ	14
「知的財産管理入門」開講!	5	図書館だより	15
教員人事、新規客員教授・准教授の紹介	5	開学記念行事開催	17
外部資金受入状況、科研費採択状況	6	「一工夫・一改革」の受賞者決定!	19



1



2



3

入学式

大きな未来へ第一歩

学部・短期大学部・大学院入学式

4月8日(休)、静岡市駿河区池田のグランシップにおいて、学部・短期大学部・大学院合同の入学式が行われ、学部・短期大学部及び大学院を合わせて955名の新入生が新たな一歩を踏み出しました。

式では、木苗学長が「何事にも果敢に挑戦し、未来に通じる自分の道を探し求めてほしい」と激励の言葉を贈りました。新入生を代表して、薬学部の野口雄司さんは「不況の社会でも負けないパワフルな社会人へと成長したい」と誓いのことばを述べました。



4



5



6

1. 初めて県大の校歌を斉唱する新入生たち
2. 新入生を代表して誓いのことばを述べた薬学部の野口雄司さん
3. 式典終了後に行われた学長1時限目の授業
4. 在学生からクラブ活動の勧誘を受ける新入生
5. 式典終了後のクラブ紹介(アカベラ部)
6. 同(ジャズダンス部)



学位記授与式

ご卒業おめでとうございます

学部・短期大学部・大学院学位記授与式

3月23日(火)、静岡市駿河区池田のグランシップで、学部・短期大学部・大学院学位記授与式が行われ、学部・短期大学部・大学院合わせて835名の卒業生が県大から旅立ちました。

木苗学長は、「夢と希望を胸に大空に羽ばたいてほしい」と祝福の言葉を贈りました。卒業生を代表して、経営情報学部の鈴木誠吾さんが「目標に近づけるよう努力したい」と決意を述べました。



1



3



2



4



6



5



7

1. 2. みんなで記念写真!
3. 学位記授与
4. 卒業生を代表して答辞を述べた経営情報学部の鈴木誠吾さん
5. 言葉を交わす学長と卒業生
6. 喜びに沸く卒業生「県大最高!」
7. 後輩に祝福される卒業生

「男女共同参画社会づくり宣言」登録証を受領しました

静岡県公立大学法人は、本学のすべての学生と教職員が、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、ワーク・ライフ・バランスを実現していきいきと活躍できる男女共同参画社会づくりを本学において推進するために、「男女共同参画社会づくり宣言」を行いました。これに伴い、3月18日(木)、宣言運動を推進している静岡県県民部県民生活局男女共同参画室（現くらし・環境部県民生活局男女共同参画課）から同宣言の登録証を受領しました。



登録証受領式にて

駐日ドイツ連邦共和国大使が来学

駐日ドイツ連邦共和国大使のフォルカー・シュタンツェル博士が4月21日(木)、本学に来学し、講演を行いました。

今年、日独交流150周年にあたり、両国は様々な記念行事を通じ、一層の友好促進を図ることとしています。特に、未来を担う若い人たちの相互の国に対する関心を高めたいと、大使の静岡訪問の際に、この講演が実現しました。

「日独交流150周年」をテーマに、日独の文化、政治、経済面での交流や経済、地域社会における21世紀グローバル化時代における日独交流のあり方、そしてこのような交流を進めるために行政や市民社会ができることは何か、などについてお話していただきました。



流暢な日本語で講演したシュタンツェル駐日ドイツ大使

ベトナム・フエ大学科学大学部との学術交流セミナーの開催

環境科学研究所は、ベトナム社会主義共和国・国立フエ大学科学大学部との学術交流協定（2008年8月28日締結）に基づき、2010年3月1日(月)～2日(火)に同大学において第3回学術交流セミナーを開催しました。当研究所からは、坂田昌弘教授、国包章一教授、関川貴寛助教が参加し、国包教授と関川助教がそれぞれ「日本における水道水の安全性確保」および「バラスト水の環境対策技術」について研究発表を行いました。フエ大学からは、科学大学部の副学部長であるDr. Hoang Van HienおよびDr. Truong Quy Tung（本学大学院環境物質科学専攻修了生）をはじめ、化学科、環境学科、地理・地質学科の教員および学生（学部4年生、大学院生）約120名が出席しました。セミナーでは多くの質問があり、予定の時間を大幅に超過する盛り上がりでした。セミナーに先立って行われた学術・教育交流

環境科学研究所長 坂田昌弘

の打合せにおいて、双方が今後も学術・教育交流を積極的に進めていくことが改めて確認されました。なお、今回の学術交流セミナーは、同大学のホームページで取り上げられ、紹介されました。



今回の学術交流セミナーが紹介されたフエ大学ホームページ

グローバルCOEプログラム

タイ・マヒドン大学理学部および環境資源科学部との学術交流協定締結 大学院生活健康科学研究科/薬学研究科（2010年3月5日）

大学院生活健康科学研究科 研究科長/教授 小林裕和、専攻長/教授 横越英彦、副専攻長/准教授 雨谷敬史
薬学部・薬学研究科 教授 野口博司、事務局COEスタッフ 野島百合子

中部国際空港より、空路6時間で真夏のタイ・スワンナプーム国際空港へ到着した。空港から車で約1時間、バンコク市内は昨年2月に訪問した時よりも更に近代的な都市となっていた。

今回の訪問の第一目的は、昨年のマヒドン大学理学部および環境資源科学部への訪問において、学術交流協定の締結に向けて着手することの合意を得、その後調整を進めてきた協定を締結することであった。理学部とは本学の大学院生活健康科学研究科および薬学研究科が、環境資源科学部とは大学院生活健康科学研究科が、それぞれ教育連携や学術研究推進のための部局間協定を締結した。また、個々の研究者を訪問し、各学部、研究所の代表者と共同研究に向けた打ち合わせや本COE拠点における交流事業の推進に向けた打ち合わせを実施した。

マヒドン大学は、バンコク市内等に4つのキャンパスを持ち、17学部、7附属研究機関、その他国際教育機関等を有し、学部学生約15,500名、大学院学生約8,300名が在籍するタイ屈指の名門大学である。タイの近代医学、健康の父と謳われるMahidol of Songklaに因んだ国立大学で、特に医学系の重点大学として、その教育の中心的存在である。今回訪問した理学部は、バンコク市内Phayathaiキャンパスにあり、歴史的な建物の中に最新鋭の設備が整っていたのが印象的であった。他方、環境資源科学部および栄養科学研究所は理学部から車で1時間程離れたナコーンパトム県Salayaキャンパスにあり、210ヘクタールの広大な緑豊かな敷地の中にある。

理学部には、約300名の教員、500名のTA等の若手研究者や学部職員と博士課程学生409名、修士課程学生687名、学部学生975名が在籍している。マヒドン大学理学部は、内容的に日本のそれとは大きく異なっており、12学科（解剖学科、生化学科、生物学科、バイオテクノロジー学科、化学科、数学科、微生物学科、病理生物学科、薬理学科、物理学科、生

理学科、植物科学科）から構成されている。全ての大学院講義が英語で実施されている点は注目に値する。研究活動も非常に活発で、同学部から国際学術雑誌への掲載論文数がタイ国内の全発表論文数の50%にも及ぶという驚くべき数字がそれを物語っている。協定締結式には、理学部長Skorn Mongkolsuk博士他20名の代表者が参列した。相互に自己紹介をし、各々の紹介DVDにより活動説明を行った。協定書への調印後、今後の両研究科や本拠点との連携や交流の推進等も含めた具体的な意見交換ができた。また、各学科の研究施設の見学では、個々の研究内容について討論し、中には共同研究への発展が見込まれる研究課題もあった。学部長主催の昼食会では学部内の調理場より温かい食事や冷たいデザートが給仕され、猛暑の中、和んだ一時を過ごすことができた。

環境資源科学部には9つあるコースに411名の学生が所属しており、52名の教員と45名の職員が配属されている。国際機関等からの援助が年々増加していることで人的・物的資源が強化され、研究内容の充実や成果の国民への反映が進みつつあるとのことである。部局間協定締結式には、環境資源科学部長Sittipong Dilokwanich 博士他7名が参列した。相互の活動を説明した後、本学環境科学研究所の概要および研究内容等について説明した。協定書への調印の後、大学院生活健康科学研究科、環境科学研究所、本拠点との連携や交流の推進に加えて、複数の学術国際会議の共同開催等、具体的に意見交換した。研究室や施設を見学した際には学生との話しも弾み、限られた時間の中で多くの交流ができた。

栄養科学研究所には、教員および研究者56名、大学院学生37名、サポートスタッフ130名が在籍している。お互いの研究を紹介するとともに、今後の連携について意見交換をした。さらに、研究室見学、JICAの協力で運営されている水を作る施設や学生が実習するための施設等を見学する機会を得た。



協定締結後の記念撮影
(前列左から3人目がSkorn Mongkolsuk学部長)



マヒドン大学理学部前にて



協定締結後の記念撮影
(中央左がSittipong Dilokwanich学部長)

産学連携

「静岡発 世界を結ぶ新世代茶飲料と素材の開発」研究成果発表会の開催

3月16日(火)に、産学官連携で進めている「静岡県・静岡市地域結集型研究開発プログラム」の研究成果発表会が本学で開催されました。この大型研究開発プログラムは、(独)日本科学技術振興機構(JST)の支援を受けており、本学の原征彦客員教授が企業化統括、中山勉食品栄養科学部長が代表研究者となっています。本学や静岡大学をはじめ多くの教員が参画し、さらに静岡県工業技術研究所と静岡県茶業研究センターや産業界とも連携して、茶の機能性成分が体内でどんな挙動をするのかを解明する基盤研究や、美味しく飲めて体によい茶飲料の開発等を進めています。発表会では、多数の成果発表が行われましたが、企業の参加者も多く、地域の大きな期待が寄せられていることを実感しました。



研究成果発表会の要旨集と発表の様子

「知的財産管理入門」開講！

4月9日(金)1時間目、県立大学2215教室にて、「知的財産管理入門」が開講しました。この日は文系、理系を問わず80人余の学生が受講したほか、社会人聴講生も参加し、「なぜ知的財産が大切か」「日ごろ、何気なく目にしている製品に多くの知的財産が使われている」など、講師の話に興味深く耳を傾けていました。「知的財産管理入門」は、弁護士と弁理士による実務家ならではの視点で、知的財産戦略等の経営面に関わることや知的財産権取得における権利化面の講義を中心に、5月下旬まで全7回で実施されました。



知的財産管理入門の講義の様子

教員の人事、新規客員教授・准教授の紹介

■教員の人事

●就任 (4月1日付け)			●退職 (3月31日付け)					
鈴木 直義	経営情報学部	学部長	石塚 淳子	看護学部	准教授	貝沼やす子	食品栄養科学部	教授
●採用 (3月1日付け)			富安 眞理	看護学部	講師	廣田 陽	食品栄養科学部	教授
鳥飼 浩平	薬学部	助教	白石 葉子	看護学部	講師	成川 真隆	食品栄養科学部	助教
(4月1日付け)			江口 晶子	看護学部	助教	小久保康之	国際関係学部	教授
刀坂 泰史	薬学部	助教	今井 静	看護学部	助教	西田ひろ子	国際関係学部	教授
鮎 信学	食品栄養科学部	准教授	石川 真	看護学部	助教	大楠 栄三	国際関係学部	准教授
吉川 悠子	食品栄養科学部	助教	奥蘭 秀樹	国際関係学研究所	准教授	仁科 明	国際関係学部	准教授
伊藤 圭祐	食品栄養科学部	助教	(5月1日付け)			廣瀬 陽子	国際関係学部	准教授
竹部 歩美	国際関係学部	講師	濱島 義隆	薬学部	准教授	小山 秀夫	経営情報学部	教授
小窪 千早	国際関係学部	講師	岡本きみ江	看護学部	助教	山浦 一保	経営情報学部	講師
金川 幸司	経営情報学部	教授	●昇任 (4月1日付け)			松田 正巳	看護学部	教授
国保 祥子	経営情報学部	助教	鈴木由美子	薬学部	講師	寺内 英真	看護学部	講師

●退職	(3月31日付け)のつづき	佐藤 智子	看護学部	助教	平岩 俊司	国際関係学研究所	教授
日吉 孝子	看護学部	講師	繁田 佳映	看護学部	助教	吉岡 寿	環境科学研究所
池田 和恵	看護学部	助教	山田 理絵	看護学部	助教	大浦 健	環境科学研究所

■客員教授・准教授

●教授		若林 敬二	国立がんセンター研究所 がん予防基礎研究プロジェクトリーダー	H22.5.1~H25.3.31
佐々木忠徳	医療法人鉄芭蕉会 亀田総合病院薬剤部長	H22.4.1~H25.3.31	●准教授	
矢野 友啓	独立行政法人国立健康・栄養研究所補完成分プロジェクトリーダー	H22.4.1~H25.3.31	鈴木 敬明	静岡県工業技術研究所主任研究員
磯崎 泰介	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷浜松病院腎センター長	H22.4.1~H23.3.31	立道 昌幸	昭和大学医学部衛生学教室准教授
川森 文彦	静岡県環境衛生科学研究所主幹	H22.4.1~H23.3.31	神田 隆	静岡県環境衛生科学研究所主幹
永井 洋子	NPO法人心の発達研究所副理事長	H22.4.1~H25.3.31	久米 一成	静岡県環境衛生科学研究所主幹
田中 英夫	愛知県がんセンター研究所疫学・予防部長	H22.5.1~H25.3.31	茶山 和敏	静岡大学農学部准教授

外部資金受入状況

〈年度別受入状況〉

(金額単位：千円)

年度	奨学寄附金		受託研究		共同研究		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成17年度	115	119,351	37	256,801	17	29,550	169	405,702
平成18年度	108	126,329	28	250,451	20	44,500	156	421,280
平成19年度	104	117,795	56	322,203	23	54,477	183	494,475
平成20年度	119	151,492	39	233,091	31	65,767	189	450,350
平成21年度	132	154,425	47	235,628	40	85,361	219	475,414
過去5ヶ年の計	578	669,392	207	1,298,174	131	279,655	916	2,247,221
累計 (H12以降)	1,023	1,198,120	301	1,590,164	164	498,474	1,488	3,286,758

〈平成21年度受入状況〉

(金額単位：千円)

年度	奨学寄附金		受託研究		共同研究		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
全学	8	26,052	0	0	1	16,800	9	42,852
薬学部	75	78,428	18	169,366	20	46,407	113	294,201
食品栄養科学部	26	20,750	12	25,470	12	12,360	50	58,580
国際関係学部	0	0	1	300	0	0	1	300
経営情報学部	8	15,665	8	32,104	0	0	16	47,769
看護学部	2	1,320	1	200	0	0	3	1,520
環境科学研究所	12	11,060	6	7,562	7	9,794	25	28,416
短期大学部	1	1,150	1	626	0	0	2	1,776
計	132	154,425	47	235,628	40	85,361	219	475,414

平成22年度 科学研究費補助金採択状況

【年度別 採択件数】

【平成22年度 部局別 採択件数】

【平成22年度 研究種目別 採択件数】

年度	新規課題		継続課題	合計
	応募	採択		
18	209	39	49	88
19	189	44	50	94
20	194	47	63	110
21	178	47	59	106
22	153	49	83	132
過去5ヶ年の計	923	226	304	530
累計 (H13以降)	1,793	393	516	909

短期大学部を含む

部局	新規課題		継続課題	合計
	応募	採択		
薬学部	55	13	28	41
食品栄養科学部	32	11	13	24
国際関係学部	14	6	10	16
経営情報学部	12	7	7	14
看護学部	12	3	9	12
環境科学研究所	14	6	9	15
短期大学部	14	3	7	10
合計	153	49	83	132

研究種目	新規課題		継続課題	合計
	応募	採択		
基盤研究 (S)	0	0	0	0
基盤研究 (A)	1	1	1	2
基盤研究 (B)	22	8	12	20
基盤研究 (C)	58	20	43	63
萌芽研究	24	5	1	6
研究活動スタート支援	0	0	1	1
若手研究 (S)	0	0	0	0
若手研究 (A)	2	1	2	3
若手研究 (B)	44	14	23	37
特定領域研究	2	0	0	0
合計	153	49	83	132

短期大学部を含む

平成22年度に新規採択された研究代表者及び研究課題

基盤研究 (A)

野口博司	薬学部	教授	各種ポリケチド生合成酵素による分子多様性の創出
------	-----	----	-------------------------

基盤研究 (B)

奥村昭博	経営情報学部	教授	ファミリー・ビジネスにおけるネットワーク特性の経営に与える影響の実証的研究
中山慶子	国際関係学部	教授	グローバル時代の青少年の社会化コンフリクトー日韓・日米比較研究を通してー
雨谷敬史	環境科学研究所	准教授	ハロゲン系有機化合物の高感度分析と曝露評価、生成メカニズムに関する研究
飯田滋	大学院生活健康科学研究科・薬学研究科	特任教授	逆遺伝学的変異導入の最適化と相同組換えの分子機構
武田厚司	薬学部	准教授	海馬亜鉛による学習・記憶の調節と障害
太田尚子	看護学部	准教授	日本人体験者のナラティブに基づくペリネイタル・ロスのケアガイドラインの開発
小針進	国際関係学部	教授	オーラルヒストリーを基礎とした日韓関係史の再構築に向けた学際的研究
五島文雄	国際関係学部	教授	一党支配体制下のグッドガヴァナンスー中国とインドシナ三国を対象にしてー

基盤研究 (C)

武藤伸明	経営情報学部	准教授	エコセントリック情報による全体ネットワーク構造の推定
松浦博	経営情報学部	教授	音声認識による聴覚障害者の発音訓練法の開発ー音声セグメント技術の導入ー
市川陽子	食品栄養科学部	准教授	糖質吸収抑制食の継続摂取と生活習慣病バイオマーカーの関連に関する介入研究
守田昭仁	食品栄養科学部	助教	温度センサー (イオンチャンネル) を用いた地域特産食品の機能解析
林久由	食品栄養科学部	助教	フルクトース誘発高血圧における腸管でのクロライド吸収の役割の解明
桑野稔子	食品栄養科学部	准教授	メタボリックシンドローム予防・改善のための咀嚼教育効果の研究
下位香代子	環境科学研究所	教授	環境化学物質の生体影響に関する時間生物学的研究
谷幸則	環境科学研究所	准教授	元素回収システム構築のための金属イオン耐性を有する新規マンガン酸化物の探索
末松俊明	経営情報学部	准教授	環境問題における費用分担法と提携形成についてのゲーム論的研究
定塚(久富)恵世	大学院生活健康科学研究科・薬学研究科	博士研究員	高等植物の相同組換えによる遺伝子ターゲティングの頻度を向上させる組換え系の開発
藤井敏	薬学部	教授	核酸分子の新規スイッチパーツ機能の創製と応用展開
澤田潤一	薬学研究科 (研究院)	准教授	キネシン機能阻害による異常な細胞周期進行の分子細胞生物学研究
菅谷純子	薬学部	教授	細胞周期チェックポイントで機能する薬物代謝酵素発現制御因子とその制御機構の解明
三宅正紀	薬学部	講師	宿主細胞内増殖性を喪失したレジオネラ強細胞毒性株による毒性発現機構の解明
高橋忠伸	薬学部	助教	シアル酸分子種に注目したインフルエンザウイルス感染受容体の機能グライコミクス
白尾久美子	看護学部	准教授	1年目・2年目看護師の職場適応を促進および維持するための介入プログラムの検討
松岡恵	看護学部	教授	成人教育に基づく助産師の妊婦健診・ケア能力形成プログラムの検討
藤巻光浩	国際関係学部	准教授	博物館の先住民族への遺骨・遺品返還と先住民族のアイデンティティ形成の関係について
漁田俊子	短期大学部	教授	自由再生において単純および複合環境情報が引き起こす文脈依存効果の実証的比較研究
今福恵子	短期大学部	講師	小地域における難病患者災害支援マニュアルの開発

挑戦的萌芽研究

森山優	国際関係学部	准教授	戦時・戦後期における啓蒙運動とメディア
藤澤由和	経営情報学部	准教授	ソーシャル・ネットワーク理論によるソーシャル・キャピタルと健康の実証的検証
飯田滋	大学院生活健康科学研究科・薬学研究科	特任教授	育種上重要な遺伝子機能解明のための新たな変異創成法の開発
奥直人	薬学部	教授	新規ナノ粒子DDSの開発と斬新的脳血管障害治療法の確立
川島博人	薬学部	准教授	抗糖鎖抗体作製のための新しいストラテジーとその応用

若手研究 (A)

望月和樹	食品栄養科学部	助教	食後高血糖によるエピジェネティック制御機構と代謝性疾患発症との関連
------	---------	----	-----------------------------------

若手研究 (B)

渡邊貴之	経営情報学部	准教授	スケラブルな超高速回路シミュレーションアルゴリズムに関する研究
新井英一	食品栄養科学部	准教授	食後代謝動態に影響を及ぼす栄養成分の分子基盤の解明と疾病予防に対する役割
佐久間理英	食品栄養科学部	助教	満腹度の客観的評価法の確立ー科学的根拠に基づいた肥満予防・治療へのアプローチー
豊岡達士	環境科学研究所	助教	重金属による紫外線発がんの増強ーヒストン修飾から解くDNA損傷生成・修復率の変化
坂巻静佳	国際関係学部	講師	国際法上の国家免除における慣習国際法と国連国家免除条約との関係
高瑞紅	経営情報学部	講師	国際分業における取引関係の構築及びそのマネジメント
光延聖	環境科学研究所	助教	XAFSによる化学形態解析に基づく海洋堆積物へのモリブデン濃集メカニズムの解明
寺崎正紀	環境科学研究所	助教	水圏における医薬・化粧品殺菌防腐剤の汚染実態と生態毒性の変化
石井剛志	食品栄養科学部	助教	フラボノイド類と蛋白質との相互作用解析による生理作用発現機構の解明
江木正浩	薬学部	講師	固定化触媒の創製と複素環化合物の効率的ドミノ型合成への応用
尾上誠良	薬学部	講師	2型糖尿病治療を指向した新規機能性ペプチド吸入製剤の戦略的開発
岩尾康範	薬学部	助教	新規経口アルブミン製剤の設計と評価
浅井知浩	薬学部	講師	先端のがん治療に向けた全身投与型 siRNAデリバリーシステムの開発
林恵嗣	短期大学部	講師	暑熱下運動時に特有な換気亢進反応のメカニズムの解明

継続課題の研究代表者

基盤研究 (A)

六鹿茂夫 (国際関係学研究科 教授)

基盤研究 (B)

剣持久木 (国際関係学部 准教授)、横越英彦 (食品栄養科学部 教授)、鈴木直義 (経営情報学部 教授)、奥直人 (薬学部 教授)、今井康之 (薬学部 教授)、大島寛史 (食品栄養科学部 教授)、谷尻 (環境科学研究所 准教授)、森山優 (国際関係学部 准教授)、津富宏 (国際関係学部 准教授)、赤井周司 (薬学部 教授)、川島博人 (薬学部 准教授)、湖中真哉 (国際関係学部 准教授)

基盤研究 (C)	小林みどり (経営情報学部 教授)、増田修一 (食品栄養科学部 准教授)、水野かほる (国際関係学部 准教授)、吉村紀子 (国際関係学部 教授)、岩堀恵祐 (環境科学研究所 教授)、東達也 (薬学部 准教授)、豊岡利正 (薬学部 教授)、伊藤邦彦 (薬学部 教授)、石川智久 (薬学部 教授)、合田敏尚 (食品栄養科学部 教授)、小寺栄子 (看護学部 教授)、奥原秀盛 (看護学部 准教授)、小原一男 (薬学部 講師)、太田敏郎 (生活健康科学研究科 助教)、坂田昌弘 (環境科学研究所 教授)、伊吹裕子 (環境科学研究所 准教授)、西野勝明 (経営情報学部 教授)、西田公昭 (看護学部 准教授)、鈴木由美子 (薬学部 助教)、牧野正和 (環境科学研究所 准教授)、小林亨 (環境科学研究所 教授)、左一八 (薬学部 准教授)、玉野春南 (薬学部 研究員)、中山勉 (食品栄養科学部 教授)、坂口真人 (環境科学研究所 教授)、石川吉伸 (薬学部 准教授)、三輪匡男 (薬学部 名誉教授)、内田信也 (薬学部 講師)、桑原厚和 (環境科学研究所 教授)、鈴木裕一 (食品栄養科学部 教授)、濱井妙子 (看護学部 助教)、森本達也 (薬学部 教授)、白石葉子 (看護学部 講師)、金川幸司 (経営情報学部 教授)、石塚淳子 (看護学部 准教授)、富安眞理 (看護学部 講師)、増田明美 (短期大学部 講師)、江原勝幸 (短期大学部 准教授)、永野ひろ子 (短期大学部 講師)、佐々木隆志 (短期大学部 教授)、松尾ひとみ (短期大学部 教授)、三富道子 (短期大学部 教授)、立花明彦 (短期大学部 准教授)
挑戦的萌芽研究	赤井周司 (薬学部 教授)
特定領域研究 (公募)	奥直人 (薬学部 教授)、川島博人 (薬学部 准教授)
若手研究 (A)	三好規之 (食品栄養科学部 助教)、耐信学 (食品栄養科学部 准教授)
若手研究 (B)	宮城栄重 (食品栄養科学部 助教)、吉田真樹 (国際関係学部 講師)、橋川裕之 (国際関係学部 講師)、伊藤一類 (国際関係学部 講師)、上野雄史 (経営情報学部 助教)、伊藤創平 (生活健康科学研究科 助教)、清水広介 (薬学部 助教)、五十里彰 (薬学部 准教授)、榊原啓之 (環境科学研究所 助教)、井上広子 (食品栄養科学部 助教)、東野定律 (経営情報学部 講師)、岸昭雄 (経営情報学部 助教)、河内崎泰昌 (食品栄養科学部 准教授)、横山英志 (薬学部 助教)、渡辺賢二 (薬学部 准教授)、井川貴詞 (薬学部 助教)、関俊哲 (薬学部 助教)、南彰 (薬学部 助教)、黒羽子孝太 (薬学部 助教)、関本征史 (薬学部 講師)、金子雪子 (薬学部 助教)、勝又里織 (看護学部 講師)、河内俊二 (看護学部 助教)
研究活動スタートアップ	井上和幸 (薬学部 講師)、繁田佳映 (看護学部 助教)

※ 4月1日 転入者を含み、3月31日転出者、育児休業による留保者、採択結果が出ていない種目を除く

研究助成採択

財浜松科学技術研究振興会

研究者：大学長 木苗直秀
研究課題：知的財産に関する研究

財発酵研究所研究助成 (継続)

研究者：薬学部 教授 鈴木隆
研究課題：インフルエンザウイルスによる糖鎖受容体認識の多様性と宿主域を規定する分子基盤の解明

独理化学研究所

研究者：薬学部 教授 眞鍋敬
研究課題：新規オリゴアレーン型触媒を用いる位置選択的炭素-炭素結合形成反応の開発

財武田科学振興財団 報彰基金研究奨励継続助成金

研究者：薬学部 教授 森本達也
研究課題：ES細胞を用いた心筋細胞分化における心筋特異的GATA4 コンプレックスの精製

財薬学研究奨励財団

研究者：薬学部 助教 鳥飼浩平
研究課題：2010環太平洋国際化学会議への海外派遣

財内藤記念科学振興財団

研究者：薬学部 助教 鳥飼浩平
研究課題：温和な条件でのMeLn含有ペプチド-mRNA連結体合成法の開発

財飯島記念食品科学振興財団

研究者：代表研究者 食品栄養科学部 准教授 熊澤茂則
共同研究者 同 助教 石井剛志
研究課題：赤米および黒米に含まれるタンパク質結合活性を有するポリフェノールの探索

厚生労働省障害者保健福祉推進事業

研究者：国際関係学部 教授 石川 准
研究課題：画像・GPS等のセンサ統合による日常利用可能な屋内外視覚障害者歩行支援システムの開発

環境省循環型社会形成推進科学研究費補助金

研究者：分担者 環境科学研究所 助教 関川貴寛 (代表者は鳥取大学大学院工学研究科 教授 細井由彦)
研究課題：人口減少とインフラ老朽化時代における生活排水処理システムの持続的マネジメント戦略

笹川科学研究助成

研究者：薬学研究科博士後期課程3年 レボン クマール サハ
研究課題：インフルエンザウイルスの新しい感染機構を見出すことを目的とした食品成分およびリード化合物の探索と評価

日本学術振興会特別研究員

研究者：生活健康科学研究科博士後期課程2年 加治いづみ
研究課題：大腸粘膜における化学受容を起点とした管腔内環境監視機構とその生理機能

研究者：薬学研究科博士後期課程2年 安藤正樹
研究課題：亜鉛による海馬シナプス可塑性ならびに記憶の調節

研究者：薬学研究科博士後期課程3年 小出裕之
研究課題：新発想RT-DDSによるアレルギー・免疫疾患の遺伝子治療法の開発

研究者：薬学研究科博士後期課程2年 根本裕之
研究課題：フェノール性水酸基からフルオロ基への求核的置換法の開発と18Fプローブの創製

研究者：薬学研究科博士後期課程3年 平川城太郎
研究課題：高内皮細静脈特異的ヘパラン硫酸欠損マウスを用いたリンパ球ホーミングに関する研究

受賞

■第24回日本助産学会学術集会以優秀ポスター賞を受賞

3月20(土)～21(日)、つくば国際会議場で開催された第24回日本助産学会学術集会上において、看護学部の太田尚子准教授は、優秀ポスター賞を受賞しました。発表タイトルは、「ペリネイタル・ロスのケアに関する教育プログラムの開発(第2報)：プログラム開発の実際」です。日本で、流産・死産・新生児死亡などのペリネイタル・ロス(周産期喪失)のケアに関心が向けられてきたのは、ここ5年位で、看護者への教育は大変不十分でした。このプログラムは、日本で初めての看護者向け教育プログラムになります。



太田尚子准教授

■日本化学会英文速報誌 Chemistry LettersのEditor's Choice論文に選定

環境科学研究所反応化学研究室・岩村武助教の研究グループの論文“Simple and Rapid Eco-Friendly Synthesis of Cubic Octamethylsilsesquioxane Using Microwave Irradiation”が、日本化学会英文速報誌 Chemistry LettersのEditor's Choice論文に選定されました。

Chemistry Lettersでは、2010年1月より、一見してハイレベルの投稿論文を、編集委員が即決受理し、Editor's Choice論文として編集作業の超短縮化の特典を与えるとともに、その旨明示することになりました。岩村助教の研究グループの論文は同誌の2010年4月号に掲載されました。

■日本e-learning学会2009年秋季学術講演会で最優秀賞と奨励賞を受賞

2009年11月27日に開催された日本e-learning学会2009年秋季学術講演会で、経営情報学研究科と経営情報学部の学生が最優秀賞(経営情報学研究科修士1年・細澤あゆみさん他)と奨励賞(経営情報学部2年・山本洗希さん他)を受賞しました。

◎最優秀賞

論文名：『学習支援プログラム作成を想定した概念モデルの構築－フィジカルアセスメントスキル型学習への適用』

著者：細澤あゆみ、渋沢良太、岡本恵里、佐藤智子、横山航、山本洗希、湯瀬裕昭、青山知靖、鈴木直義(静岡県立大学大学院経営情報学研究科、筑波大学大学院システム情報工学研究科、静岡県立大学看護学部、同経営情報学部、同国際関係学部)



最優秀賞受賞者の方々

◎奨励賞

『PBLにおける長期プロジェクト運用の継承－概念モデルの構築の試みー』

著者：山本洗希、横山航、酒井美那、渋沢良太、細澤あゆみ、岡本竜、二見晃平、湯瀬裕昭、青山知靖、鈴木直義(静岡県立大学経営情報学部、株式会社毎日コミュニケーションズ、筑波大学大学院システム情報工学研究科、静岡県立大学大学院経営情報学研究科、同国際関係学部)



奨励賞受賞者の方々

卒業パーティーにおいて第4回「相馬賞」表彰式を開催

環境科学研究所長 坂田昌弘

昨年度の第4回相馬賞受賞者4名が決定し、3月23日(火)の卒業パーティー会場にて、環境科学研究所長より表彰状と記念品が授与されました。

「相馬賞」は、2005年3月に退職した環境科学研究所の相馬光之教授（現在本学名誉教授）からの寄付を基に、優秀な修士学位論文提出者を顕彰することを目的に創設されたものです。

本賞は、修士学位論文の口述発表会での内容を基に、各研究室の主任教員が厳正に審査することで受賞者が決定されます。スタートは2007年度からであり、毎年卒業パーティーにおいて表彰式が行われています。

本賞の創設は、研究に対する学生の意欲に加えて、論文の質やプレゼンテーション技術の向上に大いに貢献していると確信しています。



左から中島佳史さん、高橋修平さん、林広紀さん、遠藤由希子さん、いずれも2010年3月生活健康科学研究科（環境物質科学専攻）修了

HPS国際シンポジウム in Japanを終えて

短期大学部 准教授 松平千佳

昨年度、テーマ「体系的なHPS養成教育プログラムの開発」が、文部科学省から大学教育推進プログラムに採択されました。採択された事業の一環として、2月13日(土)、14日(日)の両日、HPS国際シンポジウムin Japanを地方独立行政法人静岡県立病院機構の後援を受けて短期大学部の講堂で開催しました。

このシンポジウムのテーマは、「すべてのこどものために、すべてはこどものために（Every Child in the World Matters）世界のHPS活動を日本へ 日本のHPS活動を世界へ」でした。テーマの通り、英国、アメリカ、ニュージーランドからHPS活動に深くかかわる第1人者を招聘し、国際的な視点で協働していくことの重要性について情報交換を行いました。

シンポジウムの冒頭、木苗学長から、「それぞれの国の現状について活発に語り合い、さらに将来あるべき姿を模索する場として、このシンポジウムが機能することを期待しています」との挨拶がありました。その期待通り、1日目に企画された交流会にも多くの参加者が集い、国も職種も所属をも超えた交流ができたことを喜んでいます。

2日目は、本学が提供する養成プログラムを終えた6名の修了生がそれぞれの病院での実践を報告し、日本の現状も世界に伝えることができました。その後、海外から招聘したHPSがワークショップを行い、大変盛況のうちに幕を閉じました。

この2日間を通して、約300名の方が参加した国際シンポジウムでした。このようなグローバルな視点を大切にしながら、日本の文化と教育にあったHPS養成教育プログラムの開発に努めていきたいと考えております。



全体討議の様様



ワークショップでの1コマ

国際交流

留学生スキー教室に参加して

期間：2月19日(金)～2月22日(月)（3泊4日）

場所：長野県白馬乗鞍温泉スキー場

参加した留学生：8名（中国・マレーシア・インドネシア・スリランカ・タイ）

日本人学生：8名

教員：2名

スキー指導員：5名

県大OB・OGも加えて総勢、30数名。

2月19日(金)、早朝7時、県大前から貸し切りバスで長野白馬乗鞍温泉スキー場へ向かって出発しました。宿に着いたのは昼過ぎでした。雪が降っていて、とても寒かったです。宿に荷物を置いて、準備をしてから、ゲレンデで早速集合しました。一年ぶりのスキーだったので、まだ滑れるかなと不安でしたが、決して上手とは言えないけれど、大丈夫でした。そして、先生が細かく教えてくれて、すぐコツがつかめる様になり、とても楽しかったです。また、天候に恵まれて雪山の景色がものすごく綺麗でした。

県大の留学生スキー教室に参加するのは今年でもう3回目です。2年前に初めてスキー合宿に参加して以来、毎年欠かさず参加しています。今回はじめて参加した留学生たちを見て、2年前の自分を思い出しました。マレーシア出身の私にとって、スキーはもちろんしたことないし、雪を見たこともありませんでした。最初の年のスキー教室は大変でした。スキー靴を履いて雪の上で歩くことすら一苦勞でした。しかし、先生達の教え方はとても優しくわかりやすいので、すぐコツがつかめる様になりました。初めは怖くて、山から滑り降りる時間がかかりました。また、ストップできなかつたり、曲がることできなかつたり、上手くスキー板をコントロールできないため、何度も転んでしまいました。しかし、やればやるほど、段々コントロールができて、板も揃えられるようになりました。あの怖かった斜面が今はもう平気になって、スピードを出しながら滑ることもできるようになりました。1年目と比べたらかなり上達したかなと感じました。4年後のソ

国際関係学部4年 チャン・チェン・イ

チで開催されるオリンピックに向けて、マレーシア代表としてがんばって行きたいと思います（笑）。宿のご飯はとても美味しかったです。毎日、朝昼晩の3度の食事が凄く楽しみで、今日は何が出るんだろうといつもみんなで楽しみにしていました。夜は留学生と日本人学生、そして先生達と交流しながら、懇親会を毎晩のように開きました。みんなで色々なこと（日本での生活、県大での留学生生活、友人関係、祖国と日本の文化などなど）について語り、飲み物を片手に、誰もが楽しい時間を過ごしました。

筋肉痛を抱えて、体が痛いと言いつつ、最終日の最後まで時間が許す限り楽しく滑りました。初め3泊4日は結構長いなと思っていたけど、すごく短かったです。体が痛くて大変疲れましたが、今回のスキー合宿も本当に楽しめました。今シーズン、私たちと一緒に遊んでくださった皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。また来年もゲレンデでお会いできることを楽しみにしています。今からもう、来シーズンが待ち遠しいです。また、交通費の一部として、学友会から助成金を支給していただきました。この場をお借りして、留学生を代表して感謝いたします。



白馬乗鞍温泉スキー場のゲレンデで



フィリピン留学を通して

国際関係学部 4年 太田安津沙

私は、幸運にも、国立フィリピン大学の後期セメスターに、交換留学生として行くことができました。現地では大学の授業はもちろんのこと、その他のボランティア活動や国際色豊かな友人たちとの交流など、たくさんの価値ある経験をすることができました。

大学の授業は基本的に英語でしたが、先生によってはタガログ語（フィリピン語）を混ぜてくる方もいたので、最初のころは授業を理解するのも四苦八苦でした。レポートやプレゼンも全て英語で、フィリピン人の友人たちに助けをもらいながらこなしていました。日本にいる時と違い、ただ授業に参加すればいいわけではなく、授業のための準備をして、しかも授業中には発言を求められるため、本当に大変でした。しかしそこから、フィリピン人のやさしさを身をもって感じる事ができたと、このままではいけないな、という危機感を抱けたので、自分にとって、とてもいい刺激になったと思います。

学校外でも様々な活動をしました。ボランティア活動としては、災害救助やフィリピンの有名なごみ山に登り、実際にごみ拾いの体験をさせてもらったり、行方知れずの日本人父を持つハーフフィリピン人に日本語を教えたりしました。特にごみ山の体験は、ごみを拾い、それを売って生計を立てている人々がいることは知っていましたが、実際に自分の目を見たときにはひどく衝撃を受けました。そこには日本にいたら想像できない世界が広がっており、劣悪な環境の中、明日のご飯が食べられるかどうかと、ぎりぎり生活している人々が何千と住んでいます。そんな環境にも関わらず、決して笑顔を絶やさない彼らと交流すると日本で小さなことで悩んでいた自分が恥ずかしくなりました。ボランティアでは様々な境遇にある人々と関わることで一生忘れないような経験ができ、また、改めて自分を見つめなおすことができました。

留学中には、フィリピン人はじめ、様々な国の人たちと友達になることができました。フィリピン人に焦点を当てると、優しいクラスメート、いろいろアドバイスをくれるニューハーフ、ずぼらなジープニー（※1）の運転手、適当なガードマン、などなどとても愛着のわく国民性がうかがえました。いつでも陽気で、でも繊細な心も持っている、そんなフィ

リピン人たちに泣かされ、笑わされ、最終的に「Pinoy ka na!!（もうあんたはフィリピン人だよ!）」といわれるようになるくらいフィリピンに溶け込ませてもらえました。他国の人々と触れ合うことは常識だと思っていたことを覆すことができる最高の手段です。

本当にあっという間の半年間でしたが行く前よりも、何にも代えがたい経験をたくさんさせてもらい、心身ともにだいぶたくましく、フィリピンという国が大好きになって帰ってきた私でした。

※1 ジープニー：フィリピンの乗り合いタクシー



大学最大の祭り ランタンパレードにて寮の仲間と



パラワン島のきれいな海



ごみ山の子供たちと

活躍する卒業生・修了生

～食品栄養科学部・生活健康科学研究科編～

県立大学第一期生としての自分と母校への思い

私は、1987年に本大学食品栄養科学部食品学科の第一期生として入学しました。私自身、推薦入学であったことから、特に他の学生よりも早くから大学に来ていたといえます。入学当初、学内にある建物としては、管理棟、一般教育棟、食品栄養科学部棟、体育館ぐらいしかなく、その他、図書館などの建物は静岡女子大学の建物をお借りしていました。そのようなことから、講義時間中に他の学部棟の建設のための工事音が大きく響いていたことを思い出します。また、先輩学生がいないことから、クラブ、サークル、学祭などは我々一期生自ら立ち上げ、いろいろと試行錯誤しながら活動していました。学部卒業後は、生活健康科学研究科食品栄養科学専攻修士課程に進学し、現学長である木苗直秀先生の食品衛生学研究室でお世話になりました。当時、食品栄養科学部には大学院はなかったのですが、私たち一期生は大学院の設置を働きかける署名運動を自ら行い、さらに学部の先生方のご協力のおかげで大学院ができ、今現在グローバルCOEの採択など先生方のご助力で大きく発展した本研究科をみると、感慨深いものがあります。学部及び大学院での生活では、勉強や研究に励むだけでなく、多くの友人や後輩と楽しく充実した学生生活を送ることができ、本学部及び専攻は学生数が少ないのですが、その分、アットホームな雰囲気を持っており、卒業、また修了後も良好な関係が続いています。

大学院修了後は、一年間研究生として食品衛生学研究室でお世話になった後、新日本気象海洋株式会社（現：いであ株式会社）に入社しました。大阪での2年間の主な業務は大阪湾、和歌山県海域、瀬戸内海、琵琶湖などの水質調査や、関西国際空港、中部空港建設などに伴うアセスメント業務を行っていました。大阪での勤務後、東京の国立公衆衛生院水道工学部に出向し、上下水道処理プラント関係の会社の方々と水処理技術についてさまざまな研究を2年間行いました。その後、静岡県の大井川町（現：焼津市）にある環境創造研究所に転勤となり、主に水道水、河川水、大気および生物試料中のダイオキシン類の分析業務やISOガイド25の取得に関する業

1994年3月大学院生活健康科学研究科修士課程修了
 本学食品栄養科学部 准教授 増田修一

務を行いました。これら6年間における会社員生活で、研究、分析業務、現場調査、企画、営業などの業務を行い、さらに社会における一般的な常識、協調性など多くのことを学び、これらは今現在の私自身を構築する貴重な体験・経験となっております。

その後、いであ株式会社を退職して、2001年5月より本学部の食品衛生学研究室の助手になり、木苗先生の温かくも厳しいご指導のもと、教員としての職務を遂行し、2009年4月から同研究室の准教授に着任致しました。研究室の主任教員となって既に一年経ちましたが、研究室を運営、マネジメントする大変さを実感しております。今、研究室には博士課程1名、修士課程7名、4年生3名がおり、教員が一人である状況のもと大変忙しい毎日ですが、学生たちと実験、研究をはじめ運動など充実した日々を送っております。また、研究室を含め全ての学部生、大学院生は私にとっては全員後輩に当たることから、研究だけでなく、就職、進路に関する相談を受けたり、一般社会に出る上で大切なことを教授しております。

今後も、私自身母校である静岡県立大学の発展のために、微力ながら協力していきたいと考えておりますので、今後も皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



研究室の学生と（筆者は後列左端）

★次回は、国際関係学部・国際関係学研究科編
 を掲載します。

平成22年3月卒業・修了者の就職状況

キャリア支援センターでは、企業の採用活動の進行に合わせ、各種就職ガイダンスや講座を年間35種類以上開催するとともに、専門のアドバイザーによる個別相談も実施するなど、きめ細かな就職支援を行っています。

平成22年3月卒業者の就職状況は、長引く景気低迷で厳しい就職戦線の中、学生達は内定を得るまで粘り強く活動を続け、学部生の内定率は97.5%で、前年同期を0.9ポイント下回りましたが、大学院を含めた大学全体では、内定率は97.9%と、前年同期を0.2ポイント上回っており、全国の平均（91.8%）や県内大学の平均（89.2%）と比べても高い数値となっています。

●平成22年3月卒業・修了者の就職状況（平成22年3月31日現在）

	薬学部	食品栄養科学部	国際関係学部	経営情報学部	看護学部	学部計	大学院	合計
就職内定率	100%	100%	95.5%	97.7%	100%	97.5%	98.6%	97.9%
（前年度）	100%	100%	98.3%	96.6%	100%	98.4%	95.3%	97.7%

●平成22年3月卒業・修了者の主な就職先（平成22年3月31日現在）

薬学 学 部 科 薬 学 研 究 科	アステラス製薬、大塚製薬、小野薬品工業、グラクソ・スミスクライン、武田薬品工業、中外製薬、久光製薬、花王、医薬品医療機器総合機構、静岡県
食 品 栄 養 科 学 部 生 活 健 康 科 学 研 究 科	伊藤園、春日井製菓、春華堂、東ハト、ネスレ日本、養命酒製造、エーザイ、興和、大正薬品工業、国立病院機構、静岡県立病院機構、東京都
国 際 関 係 学 部 国 際 関 係 学 研 究 科	シャンソン化粧品、クラブツーリズム、鈴与、東海旅客鉄道、ミキハウス、静岡銀行、東京海上日動火災保険、日経リサーチ、静岡市、静岡県（教員）
経 営 情 報 学 部 経 営 情 報 学 研 究 科	パナソニック、静岡鉄道、鈴与、静岡銀行、清水銀行、商工組合中央金庫、静岡県信用保証協会、NECソフト、さくら情報システム、静岡県
看 護 学 部 看 護 学 研 究 科	静岡県立病院機構、静岡赤十字病院、聖隷福祉事業団、東海大学医学部附属病院、浜松医科大学医学部附属病院、名古屋大学医学部附属病院、静岡県

「はばたき寄金」からのお知らせ

はばたき寄金運営委員会

1 平成21年度はばたき寄金事業実績

(1) 奨学金の授与

モスクワ国立国際関係大学短期交換留学生の派遣学生2名と受入学生2名に奨学支援金を授与しました。

(2) 第12回学生スピーチコンテストの開催及び第13回学生文芸コンクール並びに創造力啓発コンテストの実施

剣祭初日の10月31日(土)に第12回学生スピーチコンテストを開催しました。また、第13回学生文芸コンクール及び創造力啓発コンテストの作品募集を行い（7月～10月）、剣祭初日に入選者の表彰を行いました。

(3) はばたき賞の授与

平成21年度は該当者がありませんでした。

(4) おおとり会賞の授与

ギター&マンドリン部及び新入生歓迎委員会を表彰しました。

2 平成21年度はばたき寄金収支結果

○収入計	10,086,056円	
内訳	9,666,136円	前年度繰越金
	417,541円	寄附金等（教職員、後援会等）
	2,379円	雑収入（預貯金利息、助成返戻金）
○支出計	1,309,912円	
内訳	1,196,000円	報奨等
	100,000円	事業費助成（開学記念行事）
	13,912円	雑費（賞状用紙代等）
○差引残高	8,776,144円	次年度繰越金

図書館だより

これまでの取組み、今後の取組み

附属図書館長 稲田晴年

□ 「選書ツアー」・・・2月に行いました、今年も行います

「図書館には本がない」という話を学生から聞きました。それも一度だけではありません。大学附属図書館には35万冊の本がありますから、一体どういうことだろうと不思議に思いました。詳しく聞いてみると、「自分たちが必要とする本、自分たちが読みたいと思う本がない。」ということでした。図書館では本を選定する際に、毎年先生方に購入希望図書のリストの作成をお願いし、学生に読ませたい「指定図書」も選んでもらっています。先生方も、自分たちが思い描く学生像を基準にして本を選定しているはずですが、先生方が学生にとって必要だと考えている本と、学生が実際に必要とする本が食い違っていたのです。学生たちの話では、「それぞれの分野で古典的名著といわれるものは揃っているが、現代的な問題を直接扱った本が欠けている。」とのことでした。こうした問題を解決する最良の方法は、学生自身に本を選んでもらうことです。そこで図書館では、今年の2月17日、平成21年度後期試験の最終日に、戸田書店に協力していただき、学生による「選書ツアー」を実施しました。



当日は、参加者に午後1時に、当時は呉服町の伊勢丹近くにあった戸田書店前に集まってもらいました。参加者は12人で、看護学部、経営情報学部、国際関係学部、国際関係学研究所の学生たちです。他大学で実施した選書ツアーの参加者数と比べても、10人前後というのは標準的な人数です。書店内の一角で学生達に簡単な説明をした後、1人3万円の予算で好きな本を選んでもらいました。漫画は除くという以外、特に規制はしませんでした。参加者はみな、3万円分もの本を一度に買えるという「おとな買い」の興奮を味わいつつ、本を選んでいきました。

予定時間の1時間はあっという間に過ぎ、選書が終わった学生は次々に予約をしておいたNPOが提供する近くのビルの貸しスペースへと移動しました。全員が集まったところで、お菓子をつまみながら感想を聞きましたが、みな個人では買えない金額分の本を選んで満足そうでした。こうし

て学生自身が選んだ本は、現在、図書館の1階にコーナーを設けて展示してあります。ぜひ一度読んでみてください。

この選書ツアーが好評でしたので、今年度も前期と後期に1回ずつ行う予定です。より多くの学生が参加してくれることを期待しています。(写真は、書店内で熱心に本を選ぶ選書ツアー参加者の様子)

□ □ 4月からです・・・「22時までの開館時間の延長（今年度：試行中）」

平成21年度まで、図書館の開館時間は、平日は9時から20時まで（ただし、試験1週間前から試験期間中は21時まで、休業期間の平日は17時まで）、土曜は9時から17時まででした。しかし、開館時間を延長して欲しいという学生の要望が多く、また大学に対する認証評価の場でもこのことを指摘されました。そこで、平成22年4月からは開館時間を、平日は9時から22時までに改めました（ただし、休業期間の平日は19時まで、土曜は従来どおり17時まで）。これで、研修などで夜しか時間が自由に使えなかった理系の学生にも、図書館を十分に活用してもらえることと思います。

□ □ □ より使いやすい・・・「滞在型図書館を目指して」

図書館の役割は資料を収集するだけではありません。勉強に適した場所を提供することも重要な使命のひとつです。図書館の伝統的なイメージは、一人ひとりが声を立てず静かに勉強する場所であり、飲食などはもってのほか、というものでした。しかし、近年、全国各地の大学図書館では、学生がグループで討論しながら、楽しい雰囲気の中で勉強できる場を提供する試みが増えてきています。これはアメリカ発祥の図書館改革で、そうしたスペースは「learning commons（ラーニング・コモンズ）」と呼ばれています。

本学でも学生が集まって勉強する姿が見られますが、その多くは学生ホールの食堂や各棟1階のカレッジホールなどです。そうした場所なら、飲み物を飲みながらくつろいだ雰囲気の中で勉強を進めることができます。ですから、もし図書館にそのようなスペースがあれば、学生もより頻りに図書館に足を運び、楽しく勉強ができるようになることでしょう。その結果、図書館の利用率も高まると思います。また、図書館でグループ学習をすれば必要な文献もすぐ参照できるし、備え付けのパソコンを借りれば、その場で様々な情報などを検索することができます。

本学の附属図書館も学生サービスの一環として、ぜひとも「learning commons」の設置に取り組みたいと思います。まだ計画を立て始めた段階ですので、これから他大学の図書館を見学し、本学にふさわしいスペースの青写真を作成しなければなりません。今のところこれが一番大きな計画ですが、学生や教員にとってより使いやすい図書館にするために、今後も努力していきたいと思ひます。

《 本学教員からの寄贈著書 》

平成22年2月11日から平成22年4月10日までに先生方から寄贈を受けた著作資料は次のとおりです。

- ・園部 尚先生（名誉教授）
『製剤化のサイエンス』永井恒司・園部尚 編 じほう（499.6/N14）
- ・梅本 哲也先生（国際関係学部）
『アメリカの世界戦略と国際秩序』ミネルヴァ書房（319.53/U71）、『アメリカ外交の諸潮流 一リベラルから保守まで一』日本国際問題研究所（319.53/Ku11）
- ・富沢 寿勇先生（国際関係学部）
『平成20年度フィールドワーク実習報告書 静岡県周智郡森町』富沢寿勇 玉置泰明 湖中真哉共編（382.154/Sh94）、
『文化変容の諸相 一富沢ゼミ論集(12)、(13)』（380.4/Sh94）

シリーズ 私の1冊の本

このコーナーでは、先生方がこれまでに読んで感銘を受けたり、印象に残っている本を紹介しています。紹介されるのは、講義やゼミにおける専門分野に関連した興味深い本のほか、専門とは全く別のジャンルの本もあります。先生の意外な一面を垣間見ることも…。これらの本は、図書館の書架に配架しています。是非、ご利用ください。

薬学部 教授 伊藤邦彦

紹介図書名：『脳に悪い7つの習慣』（幻冬社新書）

著者名：林 成之

出版社名：幻冬社

I S B N：978-4344981447

図書館所蔵： 閲覧室2階 498.39/H48



著者の林成之さんは医師であり脳神経外科が専門である。現在、日本大学総合科学研究科教授をつとめており、2008年北京オリンピック競泳日本代表チームに招かれ、「勝つための脳」=勝負脳の奥義について選手たちに講義を行い、北島康介選手のアテネオリンピックに続く「平泳ぎ2冠」など、輝かしい結果に大きく貢献したという。本書は、脳が考え、記憶し、それを活用するしくみを解説しながら、脳の力を引き出すのに適した順番になるように構成されている。挙げられている7つの悪い習慣を順にやめていけば、物事への理解力が高まり、“ここぞ”というときに最高のパフォーマンスを発揮し、独創的な思考ができるようになるとともに、集中力を高め、記憶力をよくすることもできるという。

本書でとり上げている脳に悪い7つの習慣は、①「興味がない」と物事を避けること、②「嫌だ」「疲れた」とグチを言うこと、③言われたことをコツコツやること、④常に効率を考えること、⑤やりたくないのに我慢して勉強すること、⑥スポーツや絵などの趣味がないこと、⑦めったに人をほめないこと、である。これら7つの習慣のすべてに該当しない完璧な人はいないのではないかと思う。だれでもひとつやふたつは知らず知らずのうちに身につけてしまっているはずである。人は気づかぬうちに自身の脳のパフォーマンスを落としてしまっているのである。自身のもつ悪いくせに気づき、それを改善することによって脳のパフォーマンスを向上させたい人には一読の価値ありの「一冊」である。

「悪い習慣をやめるだけで得られるメリット」として、①集中力が高まる、②物忘れがなくなり記憶力が高まる、③独創的なアイデアが浮かぶようになる、④目標の達成率が上がる、⑤“ここぞ”というときに力を発揮できる、⑥頭が疲れにくくなる、⑦コミュニケーションが得意になり人間関係がよくなる、があげられている。これらの項目はだれもが身につけたいと願う能力だと思う。脳に悪い習慣を自ら進んで是正することによって、前向きで、生き生きとした、そして社会に順応できる人間に変身することができる。是非、本書を読んで、自分の人生をより充実したものにして欲しい。さらに一言付け加えさせてもらおうと、本書を読む時には、1回だけではなく、内容が理解できるまで、くり返し何回も読むことが必要だそうで、そうすることによって、良い習慣が脳に定着してくるのだそうである。

著者は、あとがきに、「人に興味をもち、好きになり、心を伝え合い、支え合って生きていく。『違いを認めて共に生きる』ことこそ、脳が望んでいるということを、どうか心に留めておいて下さい」と述べている。格差拡大社会を始めとして、現代社会は脳の望まない方向に向かっているようである。そのような中、我々にとって必要なことは脳のもつ本来の機能を取り戻すことなのではないだろうか。

平成22年度開学記念行事開催!!

今年で19回目となる開学記念行事が4月23日(金)に開催されました。

第2部は、川勝静岡県知事をお迎えし、「県大から世界にはばたこう～異文化にふれて～」をテーマに留学経験のある学生や留学生、I F C (International Friendship Club) 代表による事例発表のほか、川勝知事による特別講演、パネルディスカッションが行われました。会場となった大講堂は2階にも観客が入るほどの盛況ぶりで、大変盛り上がりました。

第2部のパネリスト及びコーディネーターは、以下の方々です。

パネリスト

- 川勝 平太氏 (静岡県知事)
 - 山本香菜子さん (国際関係学部4年)
 - 安藤 正樹さん (薬学研究科博士後期課程2年)
 - 高橋 哲也さん (国際関係学部4年)
 - グエン ミン ティエンさん (経営情報学部3年)
 - 佐野 倫子さん (国際関係学部3年)
- コーディネーター
- 長谷川玲子さん (フリーアナウンサー)

第1部の「運動会」は、生憎の雨のため、体育館での開催となりましたが、赤、青、緑、黄色の4グループに分かれて、激しい得点争いが繰り広げられました。参加人数は、100人前後とやや寂しい感がありましたが、学部・学科の垣根を越えて、スポーツを通じて交流を深めました。

第3部の「はばたきのつどい(懇親会)」には、第2部にご出演いただいた川勝知事をはじめ、鈴木静岡県公立大学法人理事長ほか、多数の学生、教職員の参加のもと盛大に開催されました。

学長、理事長の挨拶、川勝県知事の来賓挨拶に引き続き、「おおとり会賞」の表彰が行われ、今年は「静岡学生NGOあおい」が表彰されました。また、県大エコキャンパスプロジェクトのアイデアの表彰や運動会の表彰に続き、ジャズダンス部、GOLD ROWDIES (チアリーディング部) によるアトラクションが披露され大変盛り上がりしました。



運動会優勝チームに贈られたケーキ



1. チームメイトを応援!
2. 座布団競争
3. 玉入れ





4. パネルディスカッション：左から長谷川さん、川勝知事、山本さん、安藤さん、高橋さん、グエンさん、佐野さん
 5. 第2部冒頭に木苗学長からあいさつ
 6. 7. パネルディスカッションでの川勝知事と学生の皆さん

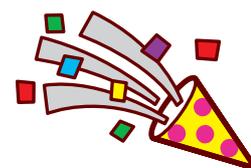


8. 川勝知事も参加したはばたきの集い
 9. おおとり会賞を受賞した「静岡学生NGOあおい」のメンバー
 10. 県大エコキャンプロジェクトで最優優賞を受賞したマデン特任講師（中央）
 11. ジャズダンス部
 12. チアリーディング部



参加者数

	区 分	第1部 運動会	第2部 シンポジウム	第3部 はばたきの集い
教職員	薬学部・薬学研究科	1	61	81
	食品栄養科学部・生活健康科学研究科	3	38	43
	国際関係学部・国際関係学研究科	1	41	48
	経営情報学部・経営情報学研究科	0	21	29
	看護学部・看護学研究科	2	22	30
	環境科学研究所	0	21	22
	言語コミュニケーション研究センター	0	0	2
	事務局・図書館	4	44	12
	当日券	0	0	6
学生	学部生、院生、研究生	約100	534	291
その他	一般、報道関係者等	0	8	0
	総 計	約111名	790名	564名



※第3部教職員参加者数は有料売上数

「静岡県立大学一工夫・一改革」運動

の 受賞者決定!



受賞者の方々

本学の組織や施設等のより一層の工夫・改革を目指し、木苗学長が提案した「静岡県立大学一工夫・一改革」運動は、225名の教職員から290のアイデアの提案がありました。その後、学長、副学長、学生部長、図書館長で審査を行い、3月11日(木)に18名の方々にアイデア大賞、優秀アイデア賞、アイデア賞、努力賞が授与されました。

授与式で木苗学長は、「これらのアイデアを、今後の本学の運営・発展に活用していきたい」と語りました。

賞	所属等	氏名	テーマ	賞	所属等	氏名	テーマ	
アイデア大賞	事務局	吉田 知己	学外者を呼び込む学食メニュー等の提供とGP取組	努力賞	薬	教授	山田 静雄 大学による教育・研究・社会貢献における功績者への表彰制度の確立	
優秀アイデア賞	短大 社会福祉	准教授	立花 明彦		短大での学長講義の実施	薬	教授	赤井 周司 事務職員ならびに教員の表彰制度
	事務局	園 部 尚	技術管理に関する高度専門職業人の養成		薬	助教	高橋 忠伸	早起き週間
アイデア賞	国際関係	教授	六鹿 茂夫		国際交流・「内なる国際化」の本格化に向けて	食品栄養	助教	萱 嶋 泰 成 授業改善成果発表会
	事務局	大吉 真里	学生・教員・県民・社会人が集うカフェ設置について		看護	准教授	西田 公 昭 大学のアメニティ	
	GCOE	特任 准教授	フリップ・ホーク		English Fridays (週一日、英語で会話する日を設置)	環境	助教	豊岡 達 士 研究費還元型消費電力削減エコグランプリ
	事務局	白井 英男	夏季一斉休業の試行案		短大 歯科衛生	講師	海老名 和子 みんなで一緒に美化活動	
	事務局	村上 能久	大学イベントの情報共有化		短大 歯科衛生	助教	中村 和美 学生・教員の清掃意識改革とコスト削減	
事務局	小田 原 章	学生活動の支援及び成果発表会の開催	事務局		山本 六三 3者協働大学活性化プロジェクトの募集及び公開審査			

ニュース&トピックスを公式サイトへ!

教職員・学生の皆さんの受賞、研究成果の発表、研究助成採択、学会・研究集会の案内、クラブ・サークル活動報告、ボランティア活動など様々な情報について、県大公式サイトへの掲載をお願いします。また、はばたきへの寄稿もお待ちしております。

公式サイトへの掲載は、各部局の公式サイト担当者へ依頼してください（不明な場合は、広報室までお問い合わせください）。

はばたき寄稿は、広報室（はばたき棟3階）までお願いします。

E-mail: koho@u-shizuoka-ken.ac.jp

発行：広報委員会

お問い合わせ先：静岡県立大学事務局広報室（TEL 054-264-5130）

静岡県立大学ホームページアドレス: <http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>